



◆ 「成熟のまち」へ

「南北分断」と「緑の不足」
 萩原駅では、長年にわたり『南北分断』が大きな課題として取り上げられてきました。この『分断』は「人」や「文化」の交流を乏しくさせています。
 また、関東大震災後における急速な宅地、戦後における急速な市街化により、区内の『緑』が大幅に減少しました。

「南北繋ぐ」「人の交流」「文化発信」「自然の創出」
 この『南北分断』は「人」や「文化」の交流を乏しくさせています。歴史・文化ある萩原をこれからの時代（世代）へ受け継ぐため、「自由、不自由な、だれでも行き来できる重層的南北自由通路」を提案します。
 また「ただ行き来するだけでなく、そこで集い、憩う空間」を創ります。萩原の自然資源である「善福寺川」からの『風の道』を提案する空間整備に取り込み、自然の創出、自然との融合を図ります。

「成熟のまち」へ
 “まち”それ自身が課題解決しながら、新陳代謝していき、多世代にわたり持続していく有機的生命体、まちが成熟していく『場』を提供します。

◆ 重階層による有機的な“つなぎ”-PLAN

多目的活動「文化ホール」
 多世代融合型「交流サロン」
 知る・萩原「ミュージアム」
 求街促す「映画館」
 全て徒歩圏「分譲住宅」

○ 住民の交流、コミュニティ形成の空間を設けるとともに、駅近住宅を整備し、コンパクトシティを実現します。また、住宅棟の下階層には託児所を設け、子育て環境を整備します。

萩原の新たな顔「新駅舎」
 集い、憩う「駅前広場」
 木々に囲まれた「商業施設」
 自然と共生「ビオトープ」

○ 区域内東側の南北解消道路面には駅前広場を整備します。南北に整備する大階段沿いに商業施設を設け、電子地域通貨を活用します。広場はファーマーズマーケットなどのイベント開催も行います。

一般車可「交通ターミナル」
 バリアフリー「南北自由通路」
 自転車も楽々「動く歩道」
 大階段沿い賑わう「商業施設」
 視界に入らない「バックヤード」

○ 一般車へも対応した新南口交通ターミナルを整備します。南北自由通路は動く歩道を併設し、自転車でも愚痴がらずに南北を行き来できる設備を整えます。

時間消費を誘導する「拡張コンコース」
 既存商店街と共存する「地下商店街」

○ 南北分断の解消手段としての地下自由通路、乗り換え利用客に消費の働きかけとしてコンコース、および地下商店街を整備します。地下商店街は、周辺商店街の商業施設を積極的に誘致し、『萩原文化』をつむぎます。

避難者・帰宅困難者へも対応「防災備蓄倉庫」
 すきなみ区民レスキュー 一次利用「防火用水」
 ゲリラ豪雨も対応「雨水流出抑制施設」

○ B2階レベルには、地域防災拠点としての機能を整備します。隣接する善福寺川と区域西側の環状8号線は特定緊急輸送道路に位置づけられており、防災拠点としての役割を果たします。

“天空のマルシェ” & “地底のラビリンス”

～集い、語り、伝え、育む、かけがいのない『萩原文化』を～



『まち』それ自体がひとつの『生命体』

◆ 重階層による有機的な“つなぎ”-SECTION

各階用途
 上層階：文化ホール・交流サロン等公益施設、映画館、分譲住宅
 天空階：駅舎、駅前広場、商業施設、イベント広場（ファーマーズマーケットなど）
 1階：交通ターミナル、南北自由通路、商業施設、バックヤード、中央線ホーム
 地階階：コンコース、地下商店街（大型スーパー、日用品店舗（既存商店積極誘致））
 B2階：防災備蓄倉庫、防火用水槽、丸ノ内線ホーム

◆ 諸課題への取り組み

【南北に分断された駅周辺地域の連絡改善および回遊性の向上】
 ・地下及び天空階に重層化したマルシェを建設し南北を連結、快適な南北移動を実現します。
 ・キャンビーで覆われた動く歩道を整備し、車椅子やベビーカー、自転車等の移動も円滑化します。
 ・天空階に開設される新駅舎へは、広く緩やかな階段により乗りやすさを確保し、両側には小ぶりで多様な店舗群が乗降客を歓迎します。

【緑とオープンスペースの充実】
 ・ビオトープを天空のマルシェに創出し、すきなみの象徴である武蔵野の雑木林を再現します。（鳥や区民のサンクチュアリ）
 ・雨水を貯留しつつ、循環させ、せせらぎを再現します。

【少子高齢化でも暮らしやすいバリアフリー、コンパクトなまちへ】
 ・天空、および地下の重層化したマルシェは、鉄道利用者、自転車および歩行利用来街客を中心に計画します。
 ・より身近でバリアフリーな商店街を実現します。
 ・天空階には、キッズステーションを開設します。

【グリーンで効率的なエネルギー社会のモデルプロジェクト】
 ・天空階の店舗屋上や、南北を結ぶ連絡路のキャンビーを利用して太陽光発電を導入します。
 ・屋外照明は風力発電と蓄電池の導入により原則として自給します。

【地域の商店のリブレスにより生じた跡地の有効活用】
 ・天空および地下のマルシェを開設する際には地元の商店を優先的に誘致します。その移動跡地は、地域の防災上の拠点として整備することにも、平時には区民の憩いのオアシスとして緑陰スポットとして提供します。

【住宅都市すぎなみ】
 ・静謐（せいひつ）で環境に恵まれた住宅地すぎなみにふさわしいまちづくりとします。
 ・高層建築は極力抑制し、中低層による周辺と調和した構造物を提案します。
 ・南北の『風の道』を保全し、環境負荷を低減します。

【寂雑らしさ】
 ・中央線の文化の核、すきなみを拠点として活動した文化人の足跡を記録する公益施設を整備し、区内探訪の起終点とします。
 ・小ホールを整備し、音楽活動や演劇文化の発信拠点とします。

【都市活性化拠点として防災機能を強化し、周辺まちづくりのトリガーに】
 ・鉄道及び幹線街路の結節点にふさわしい防災機能を強化し、災害時の帰宅困難者に対処します。
 ・防災備蓄倉庫や非常用貯水槽を整備します。
 ・まちづくりを通して周辺にも防災機能強化を拡大します。

◆ 住民参加と事業手法

自立・自活、他都市と入れ替え出来ない「まち」へ
 まちづくりの主体は、そこに集う人々です。商店会グループ、あるいはテーマ毎にワークショップを立ち上げ、意見交換や議論をした上で、まちづくりにおいて実現すべき事項を提案していきます。鉄道事業者や商業施設運営者等を含め、「集う人々」によりまちづくり協議会を組成し、まちづくりの基本方針やルールを定めていきます。

実際のまちづくりの事業は、税制や補助金面でも有利な市街地再開発事業の中核事業として工区分けによる合併併行を提案します。
 新たに創設された地下街、および天空のマルシェ（市場）においては周辺の既存商店街の出店を歓迎するとともに、その跡地を積極的に防災拠点に転用する等、持続的なまちの成熟に努め、日本版イン・ストリート・プログラムの試行に挑みます。

◆ 数次に分け段階的に進められるまちづくり

PHASE 1
住宅棟を先行整備します。
 最初に住宅棟を建設し、開発区域内に居住する権利者の方々の移転用住宅を確保します。

PHASE 2
地下コンコースを拡張、整備します。
 現在の地下コンコースを拡張するとともに、新たに南北地下商店街を建設します。これにより、開発区域内で営業中の飲食店や物販店に、営業休止等のリスクを防ぎながら移転先を提供します。

PHASE 3
人工地盤を整備します。
 地下商店街や住宅棟への移転により、空き家となった旧商店街を解体、跡地を利用して萩原駅を跨ぐ人工地盤を建設します。これに合わせて南北を連結する連絡路（動く歩道）や大階段を整備します。

PHASE 4
天空の市場、新駅舎を整備します。
 人工地盤（デッキ）上に新駅舎、ビオトープ、店舗等を整備し、事業は一旦の完成を見ますが、地下街に核店舗を誘致する、あるいは駅周辺の商店街からの出店を積極的に受け入れる等により、まちの持続的な成熟の途を確保します。

